

# どんぐり山行通信 御正体山

第53号

2010年5月15日(土)

晴れ

参加者 21名

みしょうたいやま (1682m)

鶴ヶ島



どんぐり山行会



先月は雪で山行は見合わせたが、今朝はその倍返しのようなピーカンの五月晴れだ。歩きはじめるとまもなく純白のえんれい草が咲いている。可憐だ。花の名前はすぐ忘れてしまう。もくもくと登っていくとタラの芽を見つける。ぜんまいもある。山椒は独特の香りがする。いわれるように小粒だ。皆プロの目のようにさっと見つける。山菜採りの名人だ。まもなく、も



みじの葉を大きくしたような破れ傘を採る。葉が開く前の恰好が壊れた傘のようなのでこんな名前を頂戴したのだ。別名キノシタ、トウキチロウという説がある。東北地方のしどけと似た菊科の草らしい。なんだか今日は山菜採りだ。あえぎ喘ぎ登る。新緑の薄黄緑色の透けた葉を通して青空が見える中、ブナの林が広がっている。峰宮跡を過ぎると富士山が雲間から顔をのぞかせる。富士山が見えると山に登った気がするのはなぜだろうか。スタンプラリーでスタンプを押してもらおうような気分か。男性隊員の体力気力が限界を超えたころ、ようやく頂上にたどり着く。弁当を広げるとサラダや煮物の豪華な差し入れがどんどんと来る。遠慮なくいただいてリッチな気分になり、日ごろの窮乏生活から解放されたような錯覚に陥る。1,600mは



やはり寒い。指先が冷たくなってくるので、早々に下山する。白井平をめざして急勾配を下る。やがて道は緩やかとなり、こんどは藪が顔を出す。茎をかむとちょっと酸っぱく野の香りがする。藪を採っている女性隊員を見ていると、どんよりとした脳が急に活性化してアイデアが浮かぶ。そうだ、夕飯時に用事にかこつけてこの人の家を訪問して無理やり上がりこもう。当然夕食のご相伴になる。山菜のお浸しと天ぷらがでてくるに違いない。締めは山椒を散らした鰻重だ。考えるだけでよだれが出てくる。楽しい週末の夜を過ごせそうだ。そっと横顔を窺おうとすると、私の企みを見透かしたようにつれなく横をプイと向く。夢と希望ははかなく消える。しょうがない、うなだれて道の駅に立ち寄り山菜を仕入れて家で料理をする。メニューの一例、破れ傘一天ぷらとお浸し、タラの芽一天ぷら、ウド一酢味噌ときんぴら、山椒一じゃこの佃煮、ごごみ(隣からもらう)一天ぷらと胡麻和え、天ぷらが一番うまい。破れ傘は軽くてカラッとしている。山椒は噛んでいるとツーンとした味がする。山菜採りと料理は山のもう一つの楽しみを教えてくれた。



らが一番うまい。破れ傘は軽くてカラッとしている。山椒は噛んでいるとツーンとした味がする。山菜採りと料理は山のもう一つの楽しみを教えてくれた。



らが一番うまい。破れ傘は軽くてカラッとしている。山椒は噛んでいるとツーンとした味がする。山菜採りと料理は山のもう一つの楽しみを教えてくれた。

(伴記)

